電子署名者：Kwansei Gakuin
DN: cn=Kwansei Gakuin, ou=Public Relations, c=JP
日付：2003.10.01 13:05:42 +09'00'
署名は検証されていません。

なぜ今年は強い？ タイガースを 経済学で斬る

髙林喜久生
関西学院大学 経済学部教授

今年の阪神タイガースは本当に強い。これまで長期にわたって低迷してきたのに、急に強くなってとまどいすら覚えるほどだ。私は40年来のタイガースファン。経済学者として、今年の快進撃を読み解いてみた。

一つの鍵は、選手の年俸の上昇にある。野村監督3年目にあたる2001年、支配下選手の球団平均年俸は2433万円で12球団中11位に過ぎなかった。もちろん成績が低迷するので選手の年俸が上がらないという面もあるが、優秀な選手、すなわち高年俸の選手を補強しなかった裏付けとも言える。それが昨年の星野監督就任以来、積極的な選手補強に取り組み、2003年度は金本選手・伊良部投手の獲得などにより平均年俸は3333万円と12球団中5位まで上昇した。選手の年俸の高さは能力の高さを反映している。そして過去のデータからは「年俸が高いチームほど平均的には成績がよい」という傾向が観察されるのである。この仮説に従うと、シーズンが始まる前に今年の快進撃はある程度予測できたといえる。

それでは、過去なぜ十分な選手補強を行ってこなかったのか。第1に球団単独での採算を重視してきたことがあると考えられる。勝つためには高給の優秀な選手を集める必要がある。しかし、それはコスト拡大要因＝利益縮小要因となる。一方で「負け続けても球場に通う阪神ファン」の性格上、負けが続いても球団収入は激減しない。すなわち球団単独で見ると「勝つこと」と「もうけること」は矛盾する傾向にあるのだ。実際、阪神球団の利益の動きを見ると、最下位に低迷していた時期の方が利益水準は高く経営的には良好だった。

第2に、タイガースのもたらす経済効果の受け皿として阪神グループのサイズが十分でないことが挙げられる。経済効果の多くは阪神グループ以外の掌中に落ちることになる。たとえ戦力補強による支出増で球団が赤字になっても、グループ全体で元が取れればよいのだが・・・。

タイガースは親会社の規模の小ささやその土着性から中小企業・地場産業の代表と見られることもあり、それがタイガースの魅力でもある。しかし、その甘えがタイガースを弱体化させていたことも否定できない。今年の快進撃は球団の経営方針の転換があってこそといえるだろう。

この小文が掲載される頃にはセ・リーグ優勝が決まっているだろう。その瞬間、あまりに待たされ過ぎたわれわれファンの胸にはどのような想いがよぎるのだろうか。

たかばやし・きくお　専攻は財政学、経済統計学。経済学博士。京都大学経済学部卒業後、住友信託銀行入社。1985年から3年間、大蔵省財政金融研究所主任研究官を務める。広島大学経済学部助教授を経て1996年より現職。関西社会経済研究所で客員主任研究員。主著に「日本経済のマクロ・パフォーマンス―構造変化の実証分析―」（東洋経済新聞社）など。1953年兵庫県生まれ。子どもの頃から大のタイガースファン。

関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

西宮上ケ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ケ原一番町1番155号
●神学部●文学部●社会学部●法学部●経済学部●商学部/高等部/中学部

神戸三田キャンパス(KSC)
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
●総合政策学部●理工学部

「Sky Seminar」のバックナンバーは、http://www.kwansei.ac.jp/information/sky.html で御覧になれます。お問い合せ・・・TEL:0798-54-6017（広報室）

関西学院東京オフィス 開設
関西学院東京オフィスを丸の内のパレスビルに開設しました。産官学連携の推進や学生の就職活動支援のほか、関西学院の首都圏展開の拠点となります。
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-1-1パレスビル6階 TEL.03-5222-5678